

【教えてブリヂストンさんータイヤが知ってる今回のレース】 Rd.1 鈴鹿サーキット編

RACING NEWS formula

牧野：寺西さん、お疲れ様です。今日も路気温から、教えてください。

寺西さん：路気温ね。決勝、スタートは気温16℃に路面20℃、30分後が17/20℃、さらに30分後が16/20℃、最後は16/19℃だったね。

牧野：確か、昨日の予選中は21/30℃レース中でしたよね。路気温ともに決勝の方が少し低めですね。それにしても、レース中、路気温はほとんど変化なしだったんですね。

寺西さん：ほとんど変わらなかったね。陽も出ることなく、風も出ることなく。タイヤは・・・今日は安定していましたよ～、ばっちりでしたね。

牧野：1台だけを除けば・・・・・・・・ですよね。

※セイフティカー（SC）導入中にピットインをし、タイヤ交換をしたアンドレ・ロツテラーのペースが全く上がらず、後半、順位を落とし5位でレースを終えた件。原因はフロントタイヤの左右つけ違いだった。

寺西さん：・・・そう、1台を除けば。大変だったんだから。ピットアウト後のタイムを見ていたら1分42秒台だったのね。その前は41秒台前半で走っていたから、1秒遅い・・・おかしいなと。暖まっていないことはないだろうし、内圧が上がってないこともないだろうし、何だろうと。それからもタイムを見ても、なかなか上がってこない。おかしいな、おかしいなと思って、レース後にあわててトムスのところに行って話を訊くと、最初からアンダーでクルマが全然、回らなかったと。もしかして、タイヤ組み違いしたんじゃないのか?とも思ったのだけど、このタイヤは、予選では1分39秒台出ているわけだから、組み違いではないはずだし不思議だな、と思いながら車検場の前まで行って、ようやく理由がわかったんだよね。

牧野：私もレース後、車検場に行ったんですけど、メカニックさんが36号車の右フロントを指さしていたので、タイヤに何かあったんだなとは思っていたのですが・・・東條エンジニアから話を訊くまで全く想像つかない理由でした。

寺西さん：残念でしたね。

牧野：3年前ぐらいでしたか？チームル・マンも予選で左右反対につけて出てしまったことありましたよね・・・あの時も、突然、タイムが出なくなって、どうしたんだ?ってなっていましたよね。

寺西さん：（小さくうなづく）

牧野：なかなか起こりえないミスで、まさかあのトムスがやるというのは・・・。

寺西さん：SCサインが出た時、アンドレより前にいた一貴は、ピット入口より前に行ってしまう間に合わなかったみたいだね。ロッテラーはもう少し後ろにいたから、最初から入るつもりでいたらしいけど。先に一貴も入る用意をしていたのなら、ピットも混乱して、ああなる可能性はゼロではなかったかもしれない。けれど、まさかトムスがね・・・って感じでしたね。



金曜日の特別走行開始前、ピットロード出口にて、取材をする

”レース界の声の魔術師”ピエール北川氏と”タイヤの神様”ブリヂストン寺西さん

牧野：今日のレースでは、タイヤは他に変わった動きはありませんでしたか？

寺西さん：変わったことどころか、みんな、問題はなく、ずっと安定して走っていたとの声ばかりだったね。

牧野：レース中のタイムを見ていると、ガクンとタイムが落ちることもなかったでしたね。

寺西さん：落ちないね。基本は、ニュータイヤで走り出して、計測1、2ラップ目がベストな状態で、3ラップ目から、いったん、徐々に落ち始めるんだけど、そこから割と安定して走れているみたいだから問題はなし。タイヤとしては徐々にタレてタイムは落ちているのだけれど、ガソリンが減って、クルマが軽くなる分、タイムは大きく落ちることなく安定して走れていると。

牧野：昨年のレースとかだと、ピットアウト後のロイックさんやアンドレさんがトップ2台でベストタイムを更新しあう、という光景がよくあったのですが、今回はトップ同士のバトルというのはなかったですし、後半は、ロイックさんもペースを抑えて走っていたみたいで、トップ争いの中での速さはどんなものだったのかとか、タイヤの変化というのは見ることはできませんでしたね。

寺西さん：攻めていたらもっとタイムは出ていると思うし、競り合ってる分、タイヤの傷みも激しい。バトルしながら普段、走らないようなラインも走るわけだしね。でも、後半攻めていた

ロシターだって、問題なく走っていたみたいだし、本人もタイヤはいいって言ってたしな。

牧野： 昨年のSF13で走った開幕戦のレースごと、今日のSF14のレース後では、やはり今日のほうがタイヤのツラはきれいですか？

寺西さん： きれいだったね。あとは、セットの違いだね。好みのセットがタイヤに負担がかかるようなものならば、それはやはりささくれも出やすくなるし。

牧野： 車検場で柵の外から見える限りでは10号車、リウイツィさんのタイヤは相当タレているようにみえました。

寺西さん： ああ、そうだね。ホンダ勢は特に頑張らなくちゃいけないというのもあって、タイヤは相当、酷使されていたみたいだけれどもね。まあ、タイムは1分40秒台後半から41秒台で、後半もタイム落ちることなく安定して走っていたし、タイヤとしては問題はなかったね。

牧野： 夏場はタイヤ、厳しいんじゃないないか、という声がエンジニアさんのほうから聞こえたりもしたのですが。

寺西さん： 今日みたいなこんな天気ならば全然問題ないのだけれど、真夏、路面温度が40～50℃になるような時は、ちょっと厳しくなるかな。ただ、1年間を通して使うタイヤとして考えると、どこか状況が厳しくなるものなのだから、そこはセッティングでタイヤと相談して走れば良いと思いますけどね。

牧野： 次戦は5月の富士になりますか。

寺西さん： 5月か・・・ぼちぼち暖かくなるだろうから、タイヤにも厳しくなるかもしれないね。でも、富士は富士だから・・・タイヤもよく冷えるし。

牧野： ああ、なるほど。

寺西さん： ストレートが長いからね。

牧野： はい。

寺西さん： そういう意味では、そう問題はないかもしれないね。ま、今日のレースで、各チームのセットアップもだいたい出るだろうし、タイヤを持つようなセットにしてくれば、レースは問題ないと思うしね。こないだの合同テストでもいいタイムも出ていたし、予選でも結構いける

と思うね。たぶん、富士ぐらいからは、特にガイジン勢、計測1周目からタイムが出てくるだろうねえ。

牧野：1周目からですか！？

寺西さん：たぶん出ちゃうと思う。

牧野：！！？じゃ、うっかりよそ見していたら、ベストタイムが出ちゃってる、って可能性もあるということですね。次戦は予選タイムがどのくらい出てくるのか、というのと、トップの競り合いでどんな数字を出してくるのかというのが楽しみですね。

寺西さん：強いて希望をあげるならば、競り合いに日本人ドライバーが絡んできてくれるといいね。今日は、ガイジン同士で競っていたけれど、日本人が絡んでくれればもっと面白いレースになるね。さっきパドックで聞いた話では、ホンダも少しずつ良くなってきていると言っていたよ。

牧野：たしかに、予選でのタイム差もテストの時から差は縮まっていますよね。

寺西さん：セッションごとにタイム差が縮まってきていると言っていたから楽しみだね。とにかく、今日はコンディションもよく、路気温も安定していて、問題なし。無事に終わってよかったです。いい週末でした。

牧野：ありがとうございました。次戦もよろしく願っています。